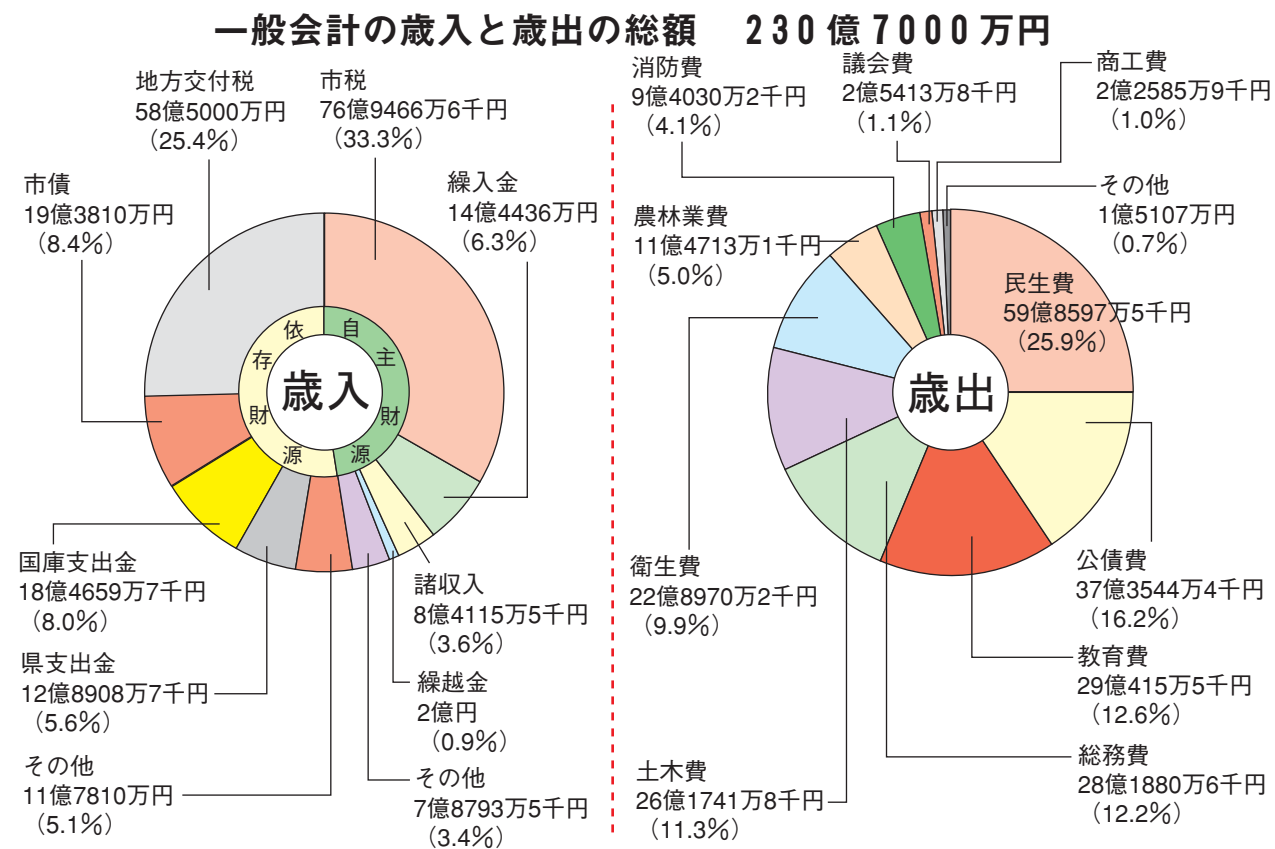




◆各会計の予算

会 計 名	平成21年度 予算	平成20年度 予算	前年との増減	増減率
●一般会計	230億7000万円	231億円	－3000万円	－0.1%
●特別会計				
国民健康保険	57億6800万円	53億円	4億6800万円	8.8%
老人保健	1000万円	8億2900万円	－8億1900万円	－98.8%
後期高齢者医療	6億1500万円	7億5500万円	－1億4000万円	－18.5%
介護保険	40億6400万円	45億7100万円	－5億700万円	－11.1%
農業集落排水事業費	5億6400万円	6億6800万円	－1億400万円	－15.6%
公共下水道事業費	26億9700万円	31億2000万円	－4億2300万円	－13.6%
国民宿舎事業費	7億9800万円	8億8000万円	－8200万円	－9.3%
総社駅南地区土地区画整理事業費	4億9600万円	8億1000万円	－3億1400万円	－38.8%
小 計	150億1200万円	169億3300万円	－19億2100万円	－11.3%
●公営企業会計				
水道事業	19億1080万円	20億560万円	－9480万円	－4.7%
工業用水道事業	6640万円	5450万円	1190万円	21.8%
小 計	19億7720万円	20億6010万円	－8290万円	－4.0%
合 計	400億5920万円	420億9310万円	－20億3390万円	－4.8%

借入金の残高は着実に減少し、全ての会計分の残高は約500億円です。教育費は前年に比べ1.5%増えています。常盤小学校の校舎増築をはじめ、学力向上関連として指導力向上の研修や各学校の課題に応じた非常勤教員の配置、学校給食用の食器購入など、学校教育に力を入れたものとなりました。

高梁川新架橋の建設による合併特例債1億2390万円や、地方交付税と同じように使える臨時財政対策債9億4000万円の借り入れ、より低利な借入金への借り換えなどにより、市債は前年比48.6%増です。市の借入金の返済額にあたる公債費は約37億3550万円、一般会計の16.2%を占めます。前年比で約3億2600万円増え、引き続き返済のピークは続きます。

必要性や緊急性の検討、市の貯金から繰り入れた約14億4440万円などで確保しました。

ニティバスの運行、高齢者へのバス・タクシー券の助成と妊婦の健康診査の拡充

なども予算化しました。財源は、行政改革大綱に基づいた経費の節減、事業



高梁川新架橋の建設

昨年9月に建設を推進することとなった高梁川新架橋を含む清音神在本線に関連する予算は約2億8590万円。高梁川右岸側の橋梁部分の建設地を購入するための補償費や、中原地内の道路の建設費などがその主なもの

一般会計をはじめ、8つの特別会計と2つの公営企業会計（水道）の平成21年度の予算が決まりました。一般会計の総額は230億7000万円。平成20年度の同時期と比較すると3000万円少なく、率にして0.1%の減です。特別会計の総額は、前年同期比11.3%の減の150億1200万円です。国民健康保険特別会計以外全ての会計が前年度に比べ減少。介護保険特別会計は、向こう3年間の事業計画の見直しによるものです。老人保健は、老人保健制度に替わり昨年4月からスタートした後期高齢者医療制度のスタートによる大幅な減で、予算は老人保健の残務処理

の経費です。水道関連の公営企業会計も同様に前年同期比4%の減で、19億7720万円。全会計の合計は400億5920万円で、前年同期比で4.8%の減です。一般会計に入ってくるお金の3分の1を占める市税。急激な景気悪化により、個人市民税が8.4%、法人市民税が25.6%と大きく落ち込み、市税の予算額を前年に比べ約4億6000万円減の約76億9467万円を見込んでいます。

厳しい財政事情のなか、一般会計は身近な課題を解決する「身近再生」をテーマに編成。「地域密着」「子育て王国ぞうじや」「弱者主義」などに関係する予算にできる限り配分しました。地域の道路や農道などの修繕や改良などは、緊急経済対策として実施した今年2月の補正予算の公共工事前倒し分を含め、おおむね昨年並みの約2億5000万円を確保しました。また、夜間診療の当番医、阿曾と昭和地区でのコミュ

◆特集◆
平成21年度予算

身近再生

身近な予算を
できる限り配分



常盤小学校の校舎増築……1億4500万円
児童数の増加に対応するもので、現校舎の北側に普通教室4部屋をもつ2階建ての校舎を建設